

令和 6（2024）年度 資源評価調査状況報告書（拡大種）

スジアラ南西諸島海域

対象水域	南西諸島海域	参画機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 鹿児島県水産技術開発センター 沖縄県水産海洋技術センター
------	--------	-------	--

- ・令和 4 年度資源評価調査報告書を公表済み（https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_160.pdf）、次回令和 7 年度を予定

(1) 調査の概要

- ・機構は、生物情報収集調査を実施
- ・鹿児島県、沖縄県は、生物情報収集調査を実施

(2) データ収集状況

- ・鹿児島県は、奄美群島および熊毛地区（種子・屋久）におけるスジアラの水揚データを収集、熊毛地区で水揚げされたスジアラの精密測定を実施
- ・沖縄県は、県内全域のスジアラ属の漁獲量を収集、県内8漁協で水揚げされたスジアラの体長測定を週2回実施
- ・機構は南西諸島およびその周辺海域で漁獲されたスジアラ75尾を買い取り、尾叉長、体重、生殖腺重量等の精密測定、耳石薄層切片観察による年齢査定を実施、長崎県対馬で漁獲されたスジアラ15個体のDNA配列情報を分析中

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和 5 年度資源評価調査状況報告書を参照（https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/report_2023_160.pdf）
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

- ・漁業・養殖業生産統計の対象種ではないが、各漁協は漁獲情報を所持している可能性があるため、そのデータの発掘に努める
- ・資源変動要因や回遊経路等の不明な点が多いため、引き続き情報収集・解析に努める必要がある
- ・種子島では漁協のシステム不具合により 2010～2011 年は水揚量が収集できていない期間がある。また、種子島の一部漁協の水揚量が収集できていない